

ザカリヤの賛歌

ルカの福音書 1章 67-80節

はじめに

先週からアドベントに入りまして、先週は「マリヤの賛歌」を学びました。今日は、「ザカリヤの賛歌」を学びたいと思います。ザカリヤという人は、バプテスマのヨハネの父であって、この「ザカリヤの賛歌」は、バプテスマのヨハネが生まれた時に、ザカリヤが神様をほめたたえたものです。68節に、「**ほむべきかな、イスラエルの神、主**」とありますが、この「ほむべきかな」という言葉のラテン語が「ベネディクトス」という言葉なので、この「ザカリヤの賛歌」はキリスト教会では「ベネディクトス」と呼ばれます。

1. バプテスマのヨハネの役割

ザカリヤは、バプテスマのヨハネの父なので、ザカリヤがバプテスマのヨハネの役割について預言している76-77節をまず見てみましょう。「**幼子よ、あなたこそいと高き方の預言者と呼ばれる。主の御前に先立って行き、その道を備え、罪の赦しによる救いについて、神の民に、知識を与えるからである。**」バプテスマのヨハネの役割は、「預言者」として、イエス様に先立って現れ、イエス様の道を備えることにありました。具体的には、「罪の赦しによる救いについて、神の民に、知識を与える」ことでした。バプテスマのヨハネは、人々を救うことはできませんでした。あくまでも人々を救うのは、イエス様です。バプテスマのヨハネは、救いについての「知識」を与えることしかできませんでした。彼が与えた「救いの知識」とは、何でしょうか。それは、「救い」とは、「罪の赦し」であるということです。つまり、「救われる」とは、「罪が赦される」ことであるということです。神様が、私たちの罪に従って、私たちを滅ぼすのではなく、私たちの罪を赦されることこそが、「救い」であるということです。そしてバプテスマのヨハネは、罪が赦されるために、悔い改めてバプテスマ（洗礼）を受けるようにと人々を教えたのです。彼が問題にしたのは、私たち人間の「罪」についてです。彼の役割は、イエス様が現れる前に、人間の「罪」を問題にし、その「罪」を悔い改めるようにということでした。

聖書が語る人間の罪とは、神様の律法に違反することです。神様の律法は、「十戒」の中に要約して書かれていますが、その中心は、「神様を愛すること」と「隣人を愛すること」でした。その意味で、「神様を愛さないこと」また「隣人を愛さないこと」こそが、人間の罪の本質なのです。そして、その罪の本質から、私たち人間にあらゆる悲しみや苦しみ、また私たちの最大の敵である「死」がもたらされるようになったのです。またこの世の中にあるあらゆる犯罪も、この罪の本質から生まれます。ではこの罪は、どこから生まれたのでしょうか。聖書は、私たち人間の最初の先祖であるアダムとエバから生まれた

と教えています。アダムとエバが神様の命令に背いて、禁断の木の果を食べた時から、全人類に罪の性質が入ったと言うのです。それ以来、全人類が罪の性質を持って生まれて来て、その生涯において罪を重ね、神様の怒りと呪いの下にあると言うのです。

この罪が赦されない限り、私たちは、神様の怒りと呪いから救われないのです。バプテスマのヨハネは、この罪が赦されるために、悔い改めてバプテスマ（洗礼）を受けようと、人々を教えたのです。

2. イエスの役割

では、続いてバプテスマのヨハネの後に現れるイエス様の役割は何でしょうか。78-79節で、ザカリヤはこう預言しています。「**これは私たちの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、曙の光が、いと高き所から私たちに訪れ、暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私たちの足を平和の道に導く**」。神様は、自らの罪のゆえに神様の怒りと呪いの下にある私たち人間を、深くあわれみ、「曙の光」と呼ばれるイエス様を、私たちのもとに遣わしてくださいました。イエス様の役割は、「暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私たちの足を平和の道に導く」ことでした。ザカリヤは、自らの罪のゆえに、苦しみ、悲しみ、死の恐怖に怯えている私たち人間を、「暗闇と死の陰に住んでいる者たち」と表現しています。ここに、「住んでいる」とありますが、この言葉は「座っている」という意味です。私たち人間は、自らの罪のゆえに、希望の光もなく、ただ死の力に怯えながら、立ち上がることもできない、その場でただ蹲っていることしかできない、そういう状態だと言うのです。

そのような私たちに、「曙の光」となって、希望の光を与えてくれるのがイエス様だと言うのです。イエス様は、罪と死の力に蹲る私たちに希望の光を与えて、立ち上がらせ、私たちを「平和の道」へと導いてくださるのです。イエス様が導いてくださる「平和」とは何でしょうか。ここでの「平和」という言葉は、ヘブル語の「シャローム」という言葉の意味をも持ちます。つまり「平和」の他、「平安」「健康」「繁栄」などの意味を持ちます。イエス様は私たちに、「平安」を与え、「健康」を与え、「繁栄」をもたらしてくださいます。しかし、その根底には、私たちと神様との「平和」が必要なのです。私たち人間は、自らの罪のゆえに、神様の怒りと呪いの下にあります。それゆえに、その罪が赦され、神様との「平和」「和解」が必要なのです。それなしに、私たちの「シャローム」「平安」「健康」「繁栄」などあり得ないのです。私たちが、まず何よりも求めなければならないのは、神様との「平和」であり、イエス様がまず何よりも私たちを導いてくださるのは、神様との「平和」なのです。

使徒パウロはこう言っています。「**私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています**」(ローマ 5:1)。パウロも、イエス様によって神様との「平和」が与えられると言っていますが、その神様との「平和」は、「信仰によって義と認められる」ことによって与えられると言っています。「義と認められる」と

は、「罪が赦される」ことです。「罪の赦し」は、イエス様への「信仰」によって与えられるのです。イエス様を「神の子」また「神御自身」と信じ、私たちを罪から救ってくださる「救い主」と信じることによって、私たちの罪は赦されるのです。

バプテスマのヨハネは、罪が赦されるために、罪を悔い改めてバプテスマ（洗礼）を受けるように教えました。そしてパウロは、罪が赦されたために、イエス様を信じるよう教えました。つまり、私たちが罪を赦され、神様の怒りと呪いから救われ、神様との「平和」を与えられるためには、自分の罪を認めて、その罪を悔い改めること、そしてイエス様を信じてバプテスマ（洗礼）を受けることが必要なのです。そうすれば私たちは、罪と死の問題に希望の光を与えられ、立ち上がることができるのです。そして、「平和の道」、つまり「平安」や「健康」や「繁栄」の道へと歩き出すことができるのです。

3. 預言者たちの役割

しかし、このイエス様による「救い」というのは、イスラエルの民に昔から伝えられていたことなのです。69-71節を見てみましょう。「**主はその民を顧みて、贖いをなし、救いの角を私たちのために、しもベダビデの家に立てられた。古くから、その聖なる預言者たちの口を通して語られたとおりに。この救いは、私たちの敵からの、私たちが憎むすべての者の手からの救いである**」。イエス様による「救い」は、預言者たちによって昔から預言されていることでした。ダビデの子孫から、「救いの角」をもって、私たちを「贖って」くださる方が現れると預言されていたのです。イエス様はここで、「救いの角」と呼ばれています。「角」というのは、動物の力が集中する部分であり、敵と戦う部分です。イエス様は、その「救いの角」をもって、「私たちの敵」から私たちを「贖い」、私たちを救ってくださるのです。

では、私たちの「敵」とは、誰でしょうか。パウロは、エペソ6：12でこのように言っています。「**私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです**」。私たちの「敵」とは、私たちを罪へと誘い、私たちを罪と死へと墮落させ、私たちを暗闇の中で支配する悪霊です。聖書は、神様が存在するように、悪霊も存在すると教えています。イエス様は、その悪霊の支配から私たちを贖ってくださる方です。「贖う」というのは、奴隷状態の人を、お金を払って買い取ることです。イエス様は、御自身の命を「贖いの代価」として与え、私たちを悪霊の支配から解放してくださったのです。パウロもこう言っています。「**キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自分を与えてくださいました。これは、定められた時になされた証しです**」（1テモテ2：6）。この御自身の命を「贖いの代価」として与えてくださった出来事こそ、十字架の死です。イエス様は、あの十字架の死によって、私たちを罪と死から、また暗闇と悪霊の支配から贖ってくださったのです。

4. 私たちの役割

またイエス様による「救い」は、預言者たちが預言する前から、イスラエルの民の父で

あるアブラハムに対して約束されていたことでした。72-75節を見てみましょう。「**主は私たちの父祖たちにあわれみを施し、ご自分の聖なる契約を覚えておられた。私たちの父アブラハムに誓われた誓いを。主は私たちを敵の手から救い出し、恐れなく主に仕えるようにしてくださる。私たちのすべて日々において、主の御前で、敬虔に、正しく。**」

神様は、アブラハムに対してこう誓われました。「**確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取る。あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。**」この「あなたの子孫は敵の門を勝ち取る」「あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる」と言われている「アブラハムの子孫」こそ、イエス様なのです。

神様がアブラハムに誓われたのは、ザカリヤが生きていた時代から、約二千年前の出来事です。神様は、約二千年前に誓った誓いを決して忘れずに覚えておられ、今まさに実現しようとしているとザカリヤは言っているのです。

では、このように神様によって願い年月忘れられずに覚えられたイエス様による「救い」は、私たちに何を求めているのでしょうか。それは、「恐れなく主に仕えること」と「私たちのすべての日々において、主の御前で、敬虔に、正しく」歩むことです。

ここでの「仕える」という言葉は、「礼拝する」という意味の言葉です。私たちは第一に、神様を「礼拝する」ことが求められています。第二に、「主の御前で生きる」ことが求められています。私たちは、イエス様を信じて神様と平和を与えられる前は、「神様の前」で生きるより「人の前で」生きていました。人の視線を気にしながら生きていました。人が自分をどう見ているのか、あるいは世間が自分をどう見ているのかという世間体を大切に生きてきました。しかしイエス様を信じて神様と平和を与えられてから、神様が自分をどう見ているのか、神様が自分に何を求めているのかなど、神様の御心を気にするようになりました。人の視線だけでなく、神様の視線があるということが分かるようになりました。ですから良いことも悪いことも、たとえ人が見ていなくても、神様が見ておられるということが分かるようになったのです。そして、人が求めていることよりも、神様が求めていることを大切にしようと思うようになったのです。そのように、神様の御心を求めて生きることこそ、「主の御前で生きる」ということなのです。

第三に、「私たちのすべての日々において」ということが求められています。この「すべての日々において」とは、二つの意味があります。一つは「一生涯」という意味で、もう一つは「いつも」「毎日」という意味です。私たちは、生涯の最後まで、また毎日、神様を礼拝することが求められています。また生涯の最後まで、また毎日「主の御前で、敬虔に、正しく生きる」ことが求められています。日曜日だけでなく、毎日です。ある一時だけでなく、生涯の最後までです。

神様は、アブラハムに誓われた「私たちの救い」について、約二千年も忘れずに覚えておられたのです。そうであるならば、私たちも決して神様を忘れてはなりません。私たちも、「すべての日々において」、神様を礼拝し、神様の御心を求めて歩んでいきましょう。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたが誓われた誓いは、決して忘れ去られることはありません。たとえ長い年月がかかっても、必ず実現するものです。あなたは、私たちを深くあわれみ、罪と死の暗闇の中でただ蹲ることしかできなかった私たちを照らし、罪の赦しと神様との平和による「救い」へと導いてくださって感謝します。どうか私たちが、罪を悔い改め、イエス様を信じてバプテスマ（洗礼）を受け、生涯の最後まで、また日々、あなたを礼拝して、あなたの御心を求めて生きていけるように導いてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。